

同じ空の下

みんな生きている

ねえ、リュウ君のお姉ちゃん、
「人権を大切にしよう」って、
どうしようよ。

そうね・・・
まずは、私たちの周りの
人たちの「心のつばき」
を聞いてみようよ。

〈お姉ちゃん〉

〈さくらちゃん〉

〈リュウ君〉

「心のつばき」・・・？

子どもから大人まで、
いろんな人の、いろんな
声があるんだね。

ほくもがんばっ
てるのに！

みんなで
手伝おうよ！

仲間はずれに
しないでよ！

どうして僕を
さけるの！

どうして女だけがいつも
お茶くみのの！

へえー今まで気づかなかった。

男の子でしょう！

仕事のことを忘れて、
ゆっくり休んでみたい！



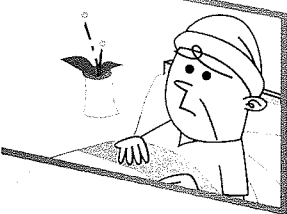
あんがいき
 多^{おほ}いんだよね。
 自^み分の身^み近^{ぢか}で起^おこった出^で
 来^き事^{こと}につい^ても、考^かえ^て
 みようよ。

通^とれ^ない
 どうし^{やう}!

〇〇商店

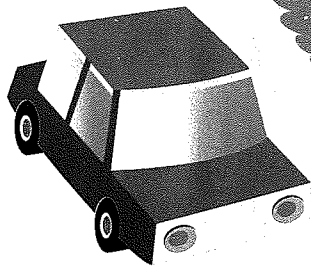
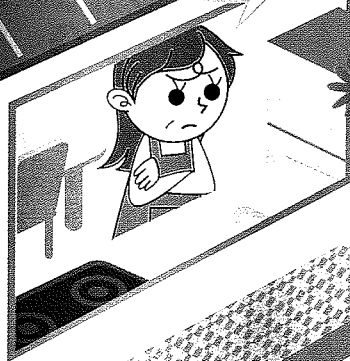
たまには誰^たか
 介^か護^ごか^わってよ!

外^{そと}の空^く気^きもす^ずい^たいな!
 だ^も、た^のみ^にく^いいな



私^{わたし}に^きた手^て紙^し勝^か手^て
 読^よま^ない^で!

い^つも家^か事^じは
 私^{わたし}ば^っか^り!



みんな違って みんないい!

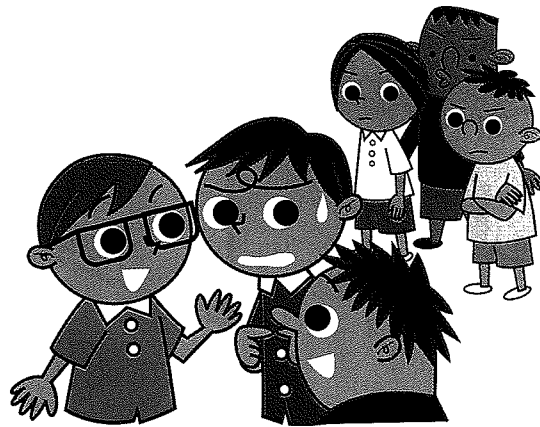


リュウ君学校でも
いろいろあったわね。

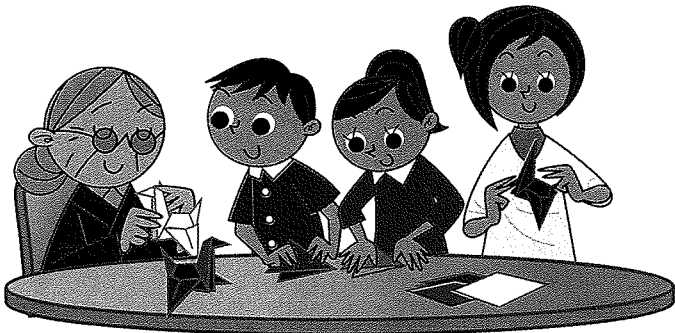
ある日の教室で

- リコウ 「この頃うちのクラス変だよね。」
- さくら 「仲良しグループがたくさんできたのはいいけど、グループに入ると、他のグループの人とは遊んじゃダメなんだって。」
- リコウ 「そんな、他の友達とも遊びたいところあるじゃないか。」
- さくら 「そっなのよね、でもそうすると仲間はすれにされちゃうからできないんだよな。」
- リコウ 「もしかしたら、今日お休みしている太郎君も、仲間はずれにされたのかな。」
- さくら 「昨日の休み時間に、みんながドッジボールしている時、太郎君一人で教室にいたけど、なんだか話しかけに〜ん〜ん……。」
- リコウ 「明日太郎君が学校にきたら、僕たち何ができるかな。」
- さくら 「太郎君に、休み時間一緒に遊ぼうって言うてみようか。」
- リコウ 「いいね、他の友達にも声をかけてみよう。」

リュウ君の家で



- 姉 「ただいまーさくらちゃん来てたの。」
- リコウ 「お姉ちゃん、お帰り。」
- 姉 「今日はどこに遊びに行くの?」
- リコウ 「お姉ちゃんも、一緒に公園に行こうよ。」
- 姉 「知らないの?公園はチカンが出たから遊んじゃダメなんだよ。」



- さくら 「うちの団地でも、エレベーターに乗るときは気を付けておろすのって、張り紙があったよ。」
- リコウ 「じゃあ、僕たちはどこで遊んだらいいの、安心して遊べるところはどこかな。」
- 姉 「今日は家で遊びましょうお姉ちゃんに折り紙教えるのもいいのよ。」
- リコウ 「それがいい。」



男らしさ？女らしさ？



家でも、こんなことがあったよ。

ある日の夕方

父 「ただいま」

母 「なんだお父さんか。お母さんかとおもった。おなかすいたよ。」

父 「分かった、分かった。お父さんが夕食をつくるからね。カレーにしよつね。」

姉 「いいよ。」

母 「ただいま、あら、お父さんの方が早かったのね。夕食はカレーなのねいい香り。」

助かるわお父さん、私は夕食ができるまで洗濯物をかたづけますね。」

姉 「私は掃除をする。」

母 「ぼくは、男だよ。家事なんてしないよ。」



父 「そうか、男は家事をしないのか。『男は仕事、女は家庭』ということ？

でも、どうなんだろう、お父さんも仕事だけど、お母さんだって働いているんだ。

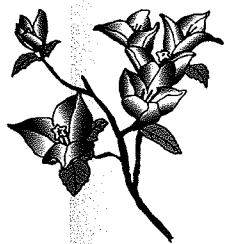
それに、お母さんが大好きだから、お父さんが早く帰ったときは夕食を作ってあげたいんだ。

なによりも、みんなで家事をするのが早くできるし楽しいだろう。」

母 「でもね、今日は学校でマラソン大会があって、僕は疲れてるんだよ。

だから、休みたかったんだよ。」

父 「分かったよ。疲れてる時には休んでもいいんだよ。」



登場人物

- ① 観光バスガイド
- ② 女
- ③ 男
- ④ 姉
- ⑤ リコウ



バスの運転手の話もあったわね

⑤ 「お姉ちゃん、今日ね、国際通りで

見かけたんだけど、バスの運転手さんが女の人だったんだよ。

大きなバスを運転しているのを見て驚いたよ、でも、かっこ良かったよ。」

④ 「おはあちゃんも見たよ、驚いたね。」

「驚くことはないよ。お姉ちゃんはそのバスに乗ったことがあるんだよ。」

③ 「だって大きいバスだよ。男の人の運転が当たり前じゃないか。」

「そんなことはないよ、女の人でもすごく上手だったよ。」

② 「観光バスのガイドさんの中に男の人もいるんだよ。だから、驚くことでも、おかしいことでもないんだよ。ね、お母さん。」

「そつだね、バスの運転手は男の仕事と決めていたんだね。」

女の大工さんや工事現場の監督さんもいるし。

男の保育士さんや幼稚園の先生もいるね。

自分自身が、好きで選んだ仕事が一番だよね。」



女らしく、男らしく、男はこうあるべき、女はこうあるべきという意識が、根強く社会に残っていて、特に女性の社会的な活躍を阻んできたことがありました。1999年、男女共同参画社会基本法が定められた後、女性の職種の広がりや、男性の家事参加が見直されてきました。しかし、女性が職場で男性と同等に仕事をしても、帰宅後の家事は女性ということも多々あり、女性への負担の多さが叫ばれているのが現状です。

女性と男性が協力して生き生きと自分らしく生きる社会と、性差を認めあえる社会が真の男女平等のあり方です。

性別による固定観念にとらわれた役割分担が、皆さんの周りにはありませんか。無意識の性差別が皆さんの身近にあるのでは・・・。

考えたことありますか？高齢者の気持ち



そうだ、おばあちゃんが退院した頃、
こんなことがあったね

おばあちゃんが退院して
帰って来た日

★夕食時の様子

- ① 「やーびりわが家がいちばんね。元気がなったのもみんなのおかげだよ。」
- ② 「おばあちゃん、今日からは食器の片付けもお姉ちゃんと私でやりますから。又騒ぐといけません。」
- ③ 「そっや、危ないからおばあちゃんには座らせて。」
- ④ 「でも、自分が食べたものへらひは自分で……。」
- ⑤ 「いえ、ついだから、まとめて洗った方が早く済みます。」
- ⑥ 「……じゃあ、テーブルでもぶいりかして。」
- ⑦ 「いいよ、僕がやるから。」
- ⑧ 「そっだよ、おばあちゃんはおひんくにして、二人に任せせてあげていいよ。」
- ⑨ 「……。」



せっかく退院してきたのに……。

- ① 「ねえ、最近おばあちゃん元気がなくて寂しそっだと思わない？いつも部屋に閉じこもってます。」
- ② きっと、おばあちゃんは何もすることがなくて、つまらないんじゃないかなあ。
- ③ おばあちゃんだってみんなのために何かしたい、役に立ちたいと思ってるんじゃない？」
- ④ 「お姉ちゃんの言うとおりね。おばあちゃんの気持ちも考えてあげるべきだったわ。」
- ⑤ 「そっや、最近おばあちゃんとおひんく話をする時間もなかったわね。」
- ⑥ きっとさみしかったんだと思うわ
- ⑦ 「……。」
- ⑧ 「そっだね、さみしかったんだね。」

登場人物



「おねえ、これまでのように、食事の準備や後片づけも、おばあちゃんと一緒にやろうよ。」



「おねえ、これまでのように、食事の準備や後片づけも、おばあちゃんと一緒にやろうよ。」

「おばあちゃんのおんな生き生きとした顔見るの、退院してから初めてよ。」

「やっぱりおばあちゃんもみんなの役に立ちたいんだね。」

「みんなの喜ぶ顔が見たいんだわ、きつ。」

「それに、おばあちゃんを寂しさから解放してあげることが家族にできない大切なことね。」

「みんな、おばあちゃんに対して心のどこかで『年寄りだから』という気持ちで接していたんじゃないかな。」

「いくら歳をとっていても、何かをやりたい気持ちは同じだよ。おばあちゃんも大切な家族の一員だからな。」

「そして、やっぱり大切な事は、おばあちゃんの気持ちを思うだけでなく、それを目に見えるかたちで行動に移すことなんじゃないかな。」

「そのことがおばあちゃんの生きがいにもつながると思うよ。」

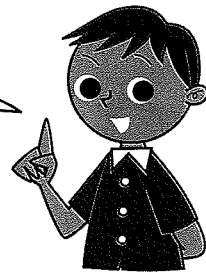
高齢者になっても、自分の意思で主体的に生きたい、社会的にも活躍したいという思いは誰でももっています。

しかしながら、個人差はありますが多くの人は高齢になると身体機能が低下し、またそれに伴う心理的な不安感も募り、周囲に何らかの手助け（心と身体のケア）が必要になってきます。

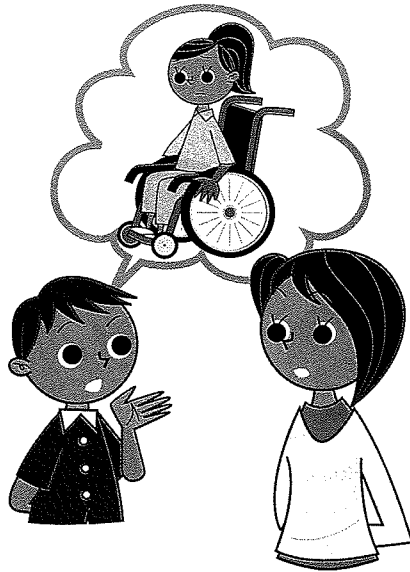
そこで大切なことは、高齢者の意思を尊重し、良かれと思うことでも手助けをする前に本人の気持ちを考えてあげることです。そのことが高齢者のやる気や能力を高め、自立にもつながります。

「高齢者も社会の大切な一員です」
 皆さんは家庭や地域の中で、どのように高齢者と接していますか。

身近にあるバリア、気づいてますか？



さくらちゃんが骨折したときのこと
おぼえている？



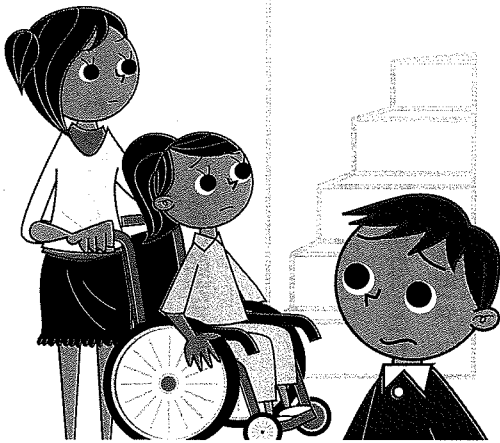
りつり

「おへんちゃん、階段から落ちて足を骨折したんだって。」

今は病院からお家に帰ってきているんだけど、後一ヶ月は車椅子を使わなければならぬから、おへんちゃん、落ち込んでいるみたいだね。

それで、気晴らしに公園にでも誘おうと思っけど、お姉ちゃんも一緒に行ってほしいんだ。

「わかった。早速行くよ。」



りつり

「おへんちゃん、公園に遊びに行こうよ。」

さくら

「ありがとう、車椅子だと家の中では、段差で動くことが難しかったから遠慮していたの。」

りつり

「この公園ではオートバイが入ったら危険だから、入り口を狭くしているって聞いたことがあるんだけど。」

「やっぱり、車椅子だと、狭くて入らないー」

姉

「これじゃ、ベビーカーも入れないんじゃないかなー、みんなのための公園なのよ。」

さくら

「もういえば学校まえの横断歩道橋も上がれなくて困ったの。」

姉

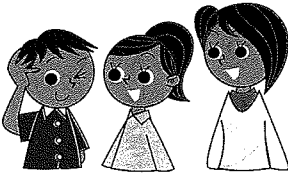
「私たちにとっては安全のために必要なものと思ってはいたけど、車椅子の人にはバリアなんだね。足の不自由なお年寄りや、妊婦さん、重い荷物をもっている人とかいろんな人が困っているんだらうな。」



登場人物



リュウ 「街の中には僕たちが気がつかない
バリアがたくさんあるんだろうな。」



リュウ 「>>>>>>、そうでもないよ。」
さくら 「あじがとう！いつもは憎まれ口の
リュウ君だけど、こんなに優しい
のね。」

リュウ 「それじゃ、バリアを無くすために、
あねちゃん手伝って。」
「おれは僕が支えているから、お
姉ちゃんが車椅子を持ち上げてく
れる。」



 車椅子		<p>みんな 皆と同じ学校へ行きたい</p>	<p>まち 道に段差が多くて街に出 られない</p>	<p>本屋で買い物をしたいけ ど棚に手が届かない</p>
 目が不自由		<p>点字ブロックの上に店の 看板があり、ぶつかって 怪我をした</p>	<p>りゅうこう しょうせつ てんじ 流行の小説を点字で読み たい</p>	<p>ようふく 洋服を買いきたいけど、色、 形がわからなくて困った！</p>
 耳が不自由		<p>ひょういん 病院に行ったら、呼び出し がわからなくて困った。また、 お医者さんにもいたいところ がうまく伝えられなかった。</p>	<p>ドラえもんを見たいけど 文字放送がない</p>	<p>かじ デパートの火事に出くわ したが、非常ベルが聞こ えなくて動転した</p>

○バリアフリーって何？

バリアフリーとは、すべての人たちが安全に、快適に市民生活をおくれるようにするために、
バリア（障がい、障壁）をフリー（なくす、取り除く）にするという意味だ。

○「障がい」はひとくくりじゃない。

「障がい」といってもさまざまです。生れたときから障がいを持つひと、交通事故や病気で途
中で障がいをもつ人、勉強や仕事がたいへんすぎてストレスなどによって精神障がいをもって
しまうこともあります。また、年齢と共に耳が聞こえづらくなったり、目が見えづらくなっ
たりと身体は衰えていく老化による障がいや、スポーツで足を骨折し、一時的にギブスをしてい
る友達、生れたばかりの赤ちゃんをベビーカーに乗せて外出するお母さん、視力が弱くなって
メガネをかけている人、そしてクタクタに疲れているときの自分……。

あいて たち ば り がい
相手の立場を理解して“心のバリア”をなくすには、私たちにどんなことができるでしょ
うか考えてみましょう。

わかることって大切



エイズやハンセン病についても、話し合ったね。

- ① 「お姉ちゃん、今日、HIVに感染した子が転入してきたんだよ。」
- ② 「それってエイズってこと？うっすらんではしょ？わたしのとなりの席なんだよ。」
- ③ 「遊ぼうってさそれだからどうしよう？」
- ④ 「前の学校では仲間はずれにされることが多かったんだって。」
- ⑤ 「心配しなくたってだよ。いっしょにおしゃべりしたり、給食を食べたりしたってぜんぜん平気よ。手をつないだってうっらないんだって、先生が教えてくれたの。」
- ⑥ 「じゃあ、ほかの友だちとおなじようにいっしょに遊んだって平気なんだね？」
- ⑦ 「そうよ、病気のことをよく知らないことが問題なんじゃない。」
- ⑧ 「僕、もっともってエイズのこと調べよ。」
- ⑨ 「私たちがひとりぼっちじゃ、つまり



「わたしは、みんなで仲良くできるよ。みんなができたほうがいいわ。」

「わたしは、みんなで勉強したり、遊んでいっしょに楽しもうって思っています。」

「わたしは、みんなが仲良くできるよ。みんなができたほうがいいわ。」

エイズはどんな病気ですか？

人間は目に見えない無数の微生物といっしょにくらしています。人間がそれらの微生物を飲んだり、食べたり、吸い込んだりしても大丈夫なのは、人間の体に「免疫機能」があるからなのです。

HIVに感染すると免疫の機能が破壊されます。エイズは、HIVに感染して免疫機能が破壊されたために起こる病気です。

現在、治療方法の研究が進み、エイズの発病を遅らせることができましたが、まだまだ治療が難しい病気です。

しかしHIVはふだんの生活で感染する心配はありません。握手など普通の接触ではうつりません。また、飛沫感染はしないので会話やせき、くしゃみなどからうつりません。



登場人物



「そつそつ、このあいだ、学校のお友達とハンセン病の療養所に行ってきたのよ。」

「ハンセン病って隔離しなければならぬ怖い病気なんですよ？」

「ちがうよ。今の私たちのような生活環境ではほとんど発病しないし、もし病気になるたとしても、短期間で完全になおせるんだって。」

「じゃあ、なぜ療養所に隔離したの？」

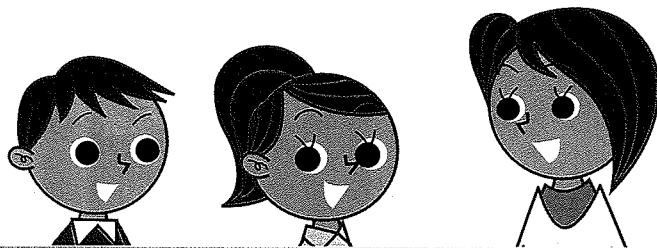
「昭和の初め頃に、ハンセン病はうつる病気だからといって、患者の皆さんを隔離施設にむりやり入所させたのよ。小学生でも家族といっしょにくらすことが出来なかったんだって。」

家族も、村八分（仲間はずれ）にされて、とつともつらい思いをしたわつよ。」

「むじやじ隔離したこと、怖い病気という誤解をつくってしまったんだ。」

「その誤解は今でも完全には消えていないんだね。」

「エイズのこと、ハンセン病のことも、正しく理解することが大切なのね。」



ハンセン病はどんな病気ですか？

ハンセン病は皮膚の病気で、皮膚の表面にこぶやまだら模様ができます。また、末梢神経が冒されるため、手足等に知覚麻痺を起こすことが多く、怪我をしても気づかなかつたりすることもあります。

潜伏期間が数年から20数年と長いことなどから、遺伝病と誤解されたこともありました。※現在では、すぐれた治療薬が開発され、適切な治療により完全に治ります。また、治療を開始すると短期間で感染力を失うので、症状が軽くなった人と接触しても感染しません。明治の頃まで遺伝病と考えられていたハンセン病が、「うつる病気」とわかってから、患者の皆さんは強制的に療養所へ隔離されました。（感染力はきわめて弱い）

隔離された患者の皆さんは、家族とも引き離されて一緒に暮らすことができませんでした。他の人にうつつたらいけないと考えられ、療養所から外に出ることも許されず、死んでも療養所で埋葬され、家族のもとには帰してもらえませんでした。また、結婚して子どもを産むことが許されませんでした（断種）（墮胎）

病気に対する無知や誤解による偏見や差別をなくし、ともに仲良くするにはどうすればよいのでしょうか。

人権^{じんけん}って、よく分からなかつたけど、みんなが安心して笑顔^{えがほ}でくらせることなんだね。

そうね、みんなの顔が一人ひとり、違うように、考え^{かんが}方や好み^{この}も違うでしょう。まずは、その違い^{ちが}いを認め^{みと}め合う^あことが大切^{たいせつ}ね。みんなが笑顔^{えがほ}になると、私^{わたし}だってうれしくなるわ。

なんだかホッとした。ほんとはね、僕^{ぼく}、編み物^{あみもの}が好きなんだ。

将来^{しょうらい}デザイナーになりたいんだ。

〈お姉ちゃん〉

〈さくらちゃん〉

〈リュウ君〉



専門相談機関・相談内容窓口一覧

女性に関すること

- ♥沖縄県女性相談所・配偶者暴力相談支援センター・・・TEL098-854-1172
- ♥沖縄県女性総合センター「ているる」・・・TEL098-868-4010
- ♥沖縄県警察本部警察安全相談室(所) (24時間受付)・・・TEL098-863-9110
- ♥女性の権利ホットライン・・・TEL098-853-1102
- ♥強姦救援センター沖縄 (R・E・I・C・O)・・・TEL098-890-6110
- ♥沖縄県警性犯罪被害者専用電話・・・TEL098-868-0110

子どもに関すること

- ♥沖縄県中央児童相談所・・・TEL098-886-2900
- ♥沖縄県コザ児童相談所・・・TEL098-937-0859
- ♥子ども権利110番・・・TEL098-853-4460
- ♥沖縄県警察本部警察安全相談室 (24時間受付)・・・TEL098-863-9110
※各警察署の警察安全相談所でも受け付けてます。
- ♥沖縄県警察本部・・・TEL098-862-0111
 - いじめ・悩み・非行等の相談 ● ヤング・テレフォンコーナー
- ♥那覇少年鑑別所・・・TEL098-862-4606
 - 非行相談等
- ♥沖縄県教育庁・・・TEL098-869-8753
 - 子育てダイヤル・子ども相談
- ♥沖縄県立総合教育センター・・・TEL098-933-7537
 - 教育相談専用ダイヤル
- ♥市町村教育委員会教育相談室
- ♥沖縄県高等学校教職員組合
 - 不登校・高校生や父母の悩み相談・・・TEL098-884-4555
 - 親と子の教育相談室・・・TEL098-887-1661

障がい者に関すること

- ♥障害者110・・・TEL098-835-6996

高齢者、知的障がい者、精神障がい者等の権利擁護に関すること

- ♥高齢者総合相談センター (シルバー110番)・・・TEL098-869-0110
- ♥沖縄県福祉サービス利用支援センター・・・TEL098-887-2028

精神保健に関すること

- ♥沖縄県立総合精神保健福祉センター・・・TEL098-888-1450
 - 心の電話相談

ボランティア、福祉体験に関すること

- ♥沖縄ボランティア・市民活動支援センター・・・TEL098-887-2000
※各市町村社協でも受け付けています。

悩みごと全般

- ♥いのちの電話 (悩み相談)・・・TEL098-868-8016

人権全般に関すること

- ♥那覇地方法務局人権擁護課・・・TEL098-854-1215



丘の向こうにはだれがいる

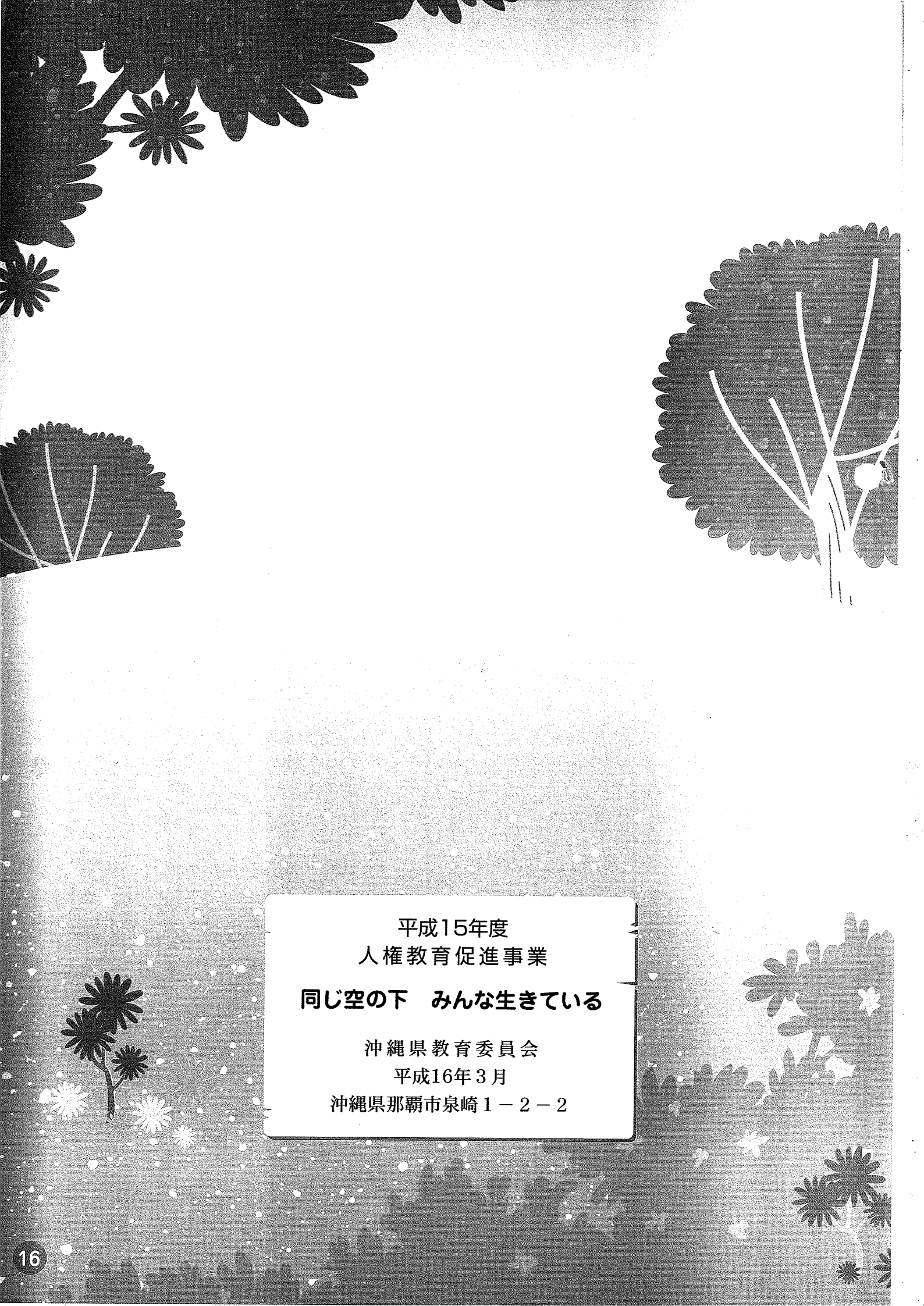
きっと友だちがいる

歩いていくと自分もいる

いいなあ

人間が人間として生きるって

(沖縄県教育委員会)
教育長 山内 彰



平成15年度
人権教育促進事業
同じ空の下 みんな生きている

沖縄県教育委員会
平成16年3月
沖縄県那覇市泉崎1-2-2



学振課で作成

R100

古紙配合率100%
白度70%の再生紙を使用しています。